



神戸市老人福祉施設連盟 第三者評価【基本情報シート】

施設名	特別養護老人ホーム 須磨シニアコミュニティ	定員	60名
設置・運営(法人名)	社会福祉法人 弘英会	開設	平成17年4月1日
所在地	〒654-0043 神戸市須磨区外浜町3丁目3-18	TEL	078-737-3737
交通アクセス	JR須磨海浜公園駅から徒歩約13分、鷹取駅から徒歩約15分	URL	<a href="http://vonedahospital.com/suma">http://vonedahospital.com/suma</a>

■法人の事業体制

1 同一法人内での実施事業	
特別養護老人ホーム(2) ショートステイ(2) デイサービス(2) 居宅介護支援事業所(2)	
2 介護・看護職員数等(短期入所併設の所は合算した数)	
●介護・看護職員1名に対する入所者	1.8 名
●介護・看護職員平均勤続年数	3.6 年
●介護・看護職員平均年齢	39.9 歳
●人材確保と育成の方針	
意欲向上として、施設内外の研修を実施しており、研修報告書を提出する事で自身を振り返る事が出来、外部研修に関してはフィードバックを行い、周知により新たな知識の習得に向けた研修も行っています。 福利厚生充実と自立支援での取り組み成果でモチベーションをアップ、新人教育の充実、市民救命士の資格習得、また各自が個人目標を設定し、自ら技術水準、知識等を把握し、半年毎に管理を行います。 フロアリーダー、リーダー、サブリーダーを設置し、それぞれの役割を明確化にしています。	
3 施設の方針・理念	
理念:「目と手に心をそえて」を基本に私達は生きがいのある生活とやりがいのある仕事、思いやりのある人づくり、社会づくりを目指します。 方針:施設では理念に基づき、ユニットケア、自立ケア、防災対策の3つを重点項目として研修や実践を展開します。	
4 施設の特徴	
各居室は眺望に配慮した設計となっております。建築材料には新素材FFCウッド(免疫木材)を使用して抗菌性と免疫性を高めています。森の中の住空間を取り入れた快適な住環境です。またユニット部の床は二重構造のフローリング張りですから、膝に負担が少なく人に優しい住居です。屋上は緑化、天然ガスによるコージェネシステムを採用、防災対策として太陽光電池の活用、非常用板スロープによる上階への避難移動を整備しています。	
5 ボランティア・研修・実習生の受け入れ	
ボランティア:ボランティア広報委員会が主になって活動しています。(ボランティアさん歓迎致します) 研修:実習生の受け入れ、大学生教職課程実習、介護職員基礎研修、兵庫県新任研修など積極的に受け入れ、各分野での合同研修の開催及び参加をしています。	
6 地域との連携(施設開放、協同行事等)	
1、外浜自治会の加入 2、施設行事に若宮小学校児童ボランティアの参加 3、介護教室の開催 4、防災福祉コミュニティへの参画 5、防災避難場所の提供	
7 居室形態	
●種類	<input type="checkbox"/> 従来型 <input checked="" type="checkbox"/> 個室ユニット型
●料金	居住費 820円～施設独自 食費 390～施設独自
8 家族との協力(家族会・行事への参加等)	
年1回の家族会への参加、ご家族が自由に面会出来る環境整備です。(ご家族からも外出がし易い環境、社会資源の提供)	

■サービス提供体制

入所条件
神戸市入所指針に準じています。現疾患や既往歴、服薬状況、血液検査データなどの医療情報提供書を頂いています。 IVH、鼻腔栄養、吸引を常時必要とされる方の入所は困難です。胃瘻の方に関してはご相談ください。
施設内自由度
居室、エレベーター、ベランダに関しては利用は自由。階段は構造上奥にあり、テンキー設備での職員用となっている為、利用者は不可。玄関、屋上については家族、職員同行にて利用されています。飲食は基本持ち込み可能です。
居室の環境
広さは約16㎡、全室個室です。馴染みのある家具やテレビ、冷蔵庫、電話、パソコン等が自由に持ち込めて使える環境です。居室には施錠が出来、床頭台にも鍵付きの引き出しを完備しています。
外出などの自由
①「ナナ・ファーム須磨」まで気軽に行ける事が出来る上、事前に連絡があれば外泊も可能です。 ②科学的介護(利用者の歩行訓練及び散歩)に基づく「ナナ・ファーム須磨」までの外出支援
身体拘束・虐待防止対策
身体拘束廃止委員会、高齢者虐待防止委員会を設置し、年5回の委員会を開催職員周知の為に施設内にて勉強会を実施しています。 各階に気づき箱の設置、身体拘束廃止に向けて24時間シートの活用、「身体拘束ゼロへの誓い」宣言をしています。
食事
月1回の行事食やユニット毎のおやつレクを実施、アレルギー嗜好に合わせた代替メニューでの提供、嗜好調査、ユニット内での炊飯、盛り付けなど家庭的な雰囲気作り、ユニット毎の行事食の実施、自室支援での常食化への取り組みをしています。
入浴
入浴前の身体の観察、血圧、体温測定を行い、入浴準備から入浴後まで主に同姓介助によるマンツーマンでの個人浴槽をご利用頂いております。また状態により車椅子対応、寝たままでの入浴も可能です。
排泄ケア
24時間シートにて排泄パターンと問題点を把握します。トイレ誘導の仕方、環境整備、個人への配慮、科学的オムツ外し、介護サービス向上教育推進委員会による研修の実施しています。
医療体制
医療体制:嘱託医(週2回の往診)、歯科医(毎週木曜日往診) 協力病院:野村海浜病院*急変時は当番の救急病院に準ずる。
ターミナルケアの実施
<input type="checkbox"/> 積極的に行う <input checked="" type="checkbox"/> 行う <input type="checkbox"/> 行わない
*ターミナルケアはケースにより行います。
認知症ケア
居室等の生活空間の整備、個別ケア対応に向けてカンファレンスの実施をしています。 介護力向上講習会研修に基づく認知症ケア、音楽療法をしています。
アクティビティ
ケアプランを基に24時間シートを活用し「科学的介護(介護力向上講習会研修に基づく水分摂取、排泄(トイレ)、食事(常食化)、歩行訓練)」に取り組んでいます。 月1回の音楽療法、喫茶、「ナナ・ファーム須磨」や館内の歩行器による運動をしています。

## 特別養護老人ホーム 須磨シニアコミュニティ

### 総合評価

- ◎ 当施設の場所が準商業地区と言うこともあって、行事も少なく地域との繋がりはやや希薄であるが、逆に施設内での活動に集中できる環境でした。部屋からは海や山が見えるロケーションで入居者や職員のかたも全体に落ち着いた雰囲気を感じられました。
- ◎ 施設長が毎朝上階から順に掃除を兼ねながら各フロアーを回って、利用者や職員とのコミュニケーションを取るよう努力する一方、部下から施設長に対する評価を出させて客観的に見ようとする姿勢を感じました。
- ◎ 情報の共有化を強く働きかけているのを感じました。基本単位であるユニットマネージメントを通じて、利用者の個人情報としては24時間シートを活用してケアプランと連動させる他、リスクマネージメントでのヒヤリハット情報、本人や家族からの希望要望の情報、栄養士との栄養会議での食事や嗜好の情報などをパソコンを通じて共有化を進めている。
- ◎ 外部への発信として、ホームページを活用している。基本方針・理念は勿論、虐待・身体拘束の廃止の表明の他、苦情などの情報も公表しており、施設の姿勢をはっきりさせている。ただ全般に情報の表し方がやや分かり難い帰来を感じました。
- ◎ 施設の管理は、今回の調査の際の資料の提出がスムーズで、また回答もスムーズでした。また記録に残す方針が良く守られていると感じ、施設長の考えが部下にも浸透しているのを感じました。またユニット単位の管理についてのメリット・デメリットも十分に検討しながらユニット管理を続けているのは、施設長や管理職の方々の考えが一致していると思います。また、面談した職員3名でしたが、介護の事・施設の事・自身の今後などよく考えていると感じました。

## 特筆すべき項目・取り組み

- ◎ 平成 23 年 11 月に、日中ではあるが「布おむつゼロ」を達成したことです。これは施設全体が一つになって取り組まないと達成出来ないことであり、施設の姿勢を感じます。その後、利用者で骨折怪我が発生して家族からの要望もありおむつを使い出したため現在はゼロではないが、その方針は続けているとの事。「おむつゼロ」のメリットとして介護度が上がらない成果があったとのことですが、施設の経営から言うと介護報酬が上がらないとの結果となっている。国が社会保障の予算が毎年増加していると嘆くのではなく、こうした努力をしている所に対するメリットを早く実施すべきと思います。それが職員の報酬アップとなり就職先として見直されるはずです。尚この案件についてはマスコミの取材があったり、認知症学会で発表されている。
- ◎ 施設長が毎朝、掃除を兼ねて館内を回りながら、利用者や職員とのコミュニケーションを図っていること。部下から施設長に対しての評価を出させていること などトップの指導性を強く感じました。
- ◎ 特に災害時を想定した一環として、エスカレーターを使わずに車いすに乗ったまま利用者を階上に上げるため考え出した板のスロープは、一見何でもないものですが簡単に間に合わせられるものなので他の介護施設や公共施設での活用を期待したい。

## 改善が必要な項目・ポイント

- ◎ ターミナルケアについて過去3件あったそうですが、今後も利用者にとっては当施設が終の住まいとなる可能性が高いと思われ、またターミナルケアに対する要望も増えると思われ。ターミナルケアは施設開設時から取り組んでいないとの事ですが、主治医も最近代わったところであり、是非取り組んでもらいたい。
- ◎ ボランティアの受け入れについて基本姿勢はあるものの余り積極的な活用がなされていないように思います。現在は音楽療法や小学生の訪問、太鼓のグループの訪問位との事。外部からの受け入れを増やすと共に施設内での趣味の会が少ないように思います。以前あった会は、先生の高齢化などで中止になったケースもあるようですが、利用者の中にはもっと会があったらとの意見もありますので、先生を捜して活性化を図って頂きたい。

## 外部評価結果に対する施設の見解

この度、当施設が神戸市老人福祉施設連盟第三者評価を受審し、訪問調査員から総合的な所見を頂きました。頂きました所見を当施設で検討を行った結果は以下の通りです。

指摘頂きました点への対応のみならず、人材育成、安定した経営、サービスの質の向上をめざし奮闘していくこととします。

施設名 須磨シニアコミュニティ

記入者 施設長

### 当施設の見解

当施設は、介護保険法の基本方針に照らし、施設サービス計画に基づき、可能な限り、居宅における生活への復帰を念頭に置いた介護を実施している。しかし制度が自立支援を求める一方、介護報酬ではターミナルケアを実施すると高い加算が算定できるなど矛盾が多い中で、受審する施設側の選択性にする等考慮が必要だと思えます。

家族アンケートの行事において、ユニット施設ではユニット毎での開催が多く、全体でみると少なくみえてしまうのが残念である。しかし、評価が低かったことについては真摯に受け止め、今後もアンケート調査を行いながら検討していく必要がある。

各項目については施設間で色々な意見があるはずであるが、第三者評価を受審して施設の実力が浮き彫りになった。

特に、家族様の意向については、気にしながらも中々把握するシステムが機能しておらず、施設の運営方針は別としても入居者や家族様に安全、安心を与える業務の在り方について再度施設職員一人ひとりが考え、責務を果たせる集団づくりに励み、サービスの質向上につなげたい。